－所蔵作品紹介－

砂澤　ビッキ　SUNAZAWA Bikky

集吸呼Ａ

しゅうきゅうこＡ

作品データはこちら

アイヌの彫刻家としても知られる砂澤ビッキは、旭川に生まれ、一時は酪農家を志したが、20代前半に鎌倉に移住し、澁澤龍彦らと交流、やがてモダンアート協会の作家たちと知り合い、同展に作品を発表するようになった。モダンアート展で新人賞を受賞した後、旭川に戻り、様々な活動を行った。1978年から亡くなるまでは北海道北部の音威子府村に住み、「樹を語り作品展」を毎年主催し、また各地の企画展に出品した。1989年、神奈川県立県民ホールで開催された「現代作家シリーズ'89　上野憲男・砂澤ビッキ・吹田文明展」の会期中に死去、1994年に北海道立近代美術館で総合的な回顧展が開催された。

この作品は彼が最も充実した活動を展開した1980年代後半のものである。この時期の彼の作品には、自然について、生そのものについてという根源的、神秘的テーマへの様々な肯定的葛藤が現れる。この作品は何処かへの門のような形であると同時に、二つのモノが相互に呼吸し、交接、交合している形とも受け止められる。それは夢幻の世界であるとともに、彼の心に確かに映ったあらゆるものの存在の原形であるのだろう。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より